

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	在宅支援センターぱびるす / 児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 6日 ~ 2025年 12月 3日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年 11月 6日 ~ 2025年 12月 3日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に対しての丁寧な対応 ・保護者から質問や相談がしやすい姿勢と雰囲気大切にしている ・実際の支援の様子をイメージしていただけるように月のお便りを発行している ・参観会を定期的に実施している	・子どもの成長発達恵み手立てとして、幼児期の受容の入り口である時期の保護者とのコミュニケーションは大事であり、細やかな連絡を心掛けている ・子育てを共にに行っているという姿勢を伝え、親御さんが孤立しないような支援を心掛けている	・保護者間での交流を図るためのプログラムの強化が必要
2	関係機関との情報共有を必要に応じて行い、より良い支援に繋げていくための手立てとしている	・関係機関との連携を図ることで、事業所だけで解決するのではなくより良い支援に繋げる努力をしている ・必要に応じて積極的に支援会議への参加と開催の呼びかけを行っている ・並行通の利用児に対して保育所等へ訪問し、情報共有を行っている	・支援会議に参加することはもちろん、今後も必要時の会議の立案、参集にも取り組んでいきたい ・職員に必要なスキルを身に付けるための研修に積極的に参加していきたい
3	職員間で意見交換を活発に行っている	・会議の場だけでなく、必要時に職員が支援に関しての意見を出せるような環境である ・支援内容だけでなく、子どもの特性の分析や環境面の課題整理、保護者とのやり取りについての情報共有を行い、解決、検討できるように意識している	・日頃からコミュニケーションを図ることで、想いや考えを職員間同士が伝えることができるような関係性を保っていく そのため、定期的な職員会議においても意見交換ができる雰囲気がある

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・個別対応可能な部屋が少ない	・個別的に取り組むが必要な児に対して集中的に取り組むための部屋が不足している	・必要に応じて2階スペースを利用することで、利用児の支援が滞ることが内容に工夫していく
2	・園庭がなく、戸外遊びの場が事業所外の外になる	・戸外あそびが園外になることで、移動時間が発生し、活動時間に制限がかかってしまうことがある また、人手も要するため、戸外遊びの機会を逃してしまう恐れがある	・今後の施設整備に向けて大きな改修は難しいが、室内でも身体を動かし、身体機能が育まれるような支援を心掛けていく ・計画的に戸外遊びの機会を設けていく
3	・SNSの活用、IT化の遅れ	・法人として日常的なSNSの活用を検討しているものの、事業所として十分活用できていない ・保護者世代はネットでの対応に困ることがなくなってきているため、ITを駆使してスピードと利便性を図りたい	・保護者アンケートに関しては、インターネットでの発信を実施しているため、今後は様々な書類に関してIT化の検討をしていく必要がある

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドルチェ			
○保護者評価実施期間	2025年 11月12日 ～ 2025年11月21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	14
○従業員評価実施期間	2025年11月12日 ～ 2025年11月21日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援開始前には職員間で打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認していること。	その日に入る職員全員で、前日の子どもたちの様子を確認し、支援の留意点など共有している。	今後もミーティングを継続し、保護者・学校での情報共有も大切に行っていく。
2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行なっている。	定期的に、色々な想定を考え訓練できている。	BCPIに沿った訓練の継続、机上訓練も今後実施していきたい。
3	アセスメントを適切に行い、定期的にモニタリングを行うことで、放課後等デイサービス計画に、ニーズや見直しの必要性を判断できている。	会議・ミーティングで全職員で共有し、支援に反映させている。	今後もモニタリングでの情報や、子どもの成長による変化へも細かく丁寧に寄り添いニーズや見直しをし職員間で共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や 障がいのない子どもと活動する機会がないこと。	近隣の高校との交流を続けてくれたが、 部活の関係で今年度は交流ができなかった。 担当の先生の変更や部活の状況(人数や場所など)が 年で変わるため、継続が難しいと感じる。	近隣の子どもたちが参加する地域の秋祭りの日程に 合わせた稼働日の設定を試みることで、 自事業所の行事に、参加してもらえるような企画を 検討してみる。
2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催 する等により、保護者同士の連携を支援できていない。	保護者同士の交流が少ないこと。	クリスマス会のように、お子さんと一緒に行事に参加 してもらえるような機会を作ることで、保護者の方々が 交流できる場を設けていきたい。 (キッチンカーやお祭りなど)
3	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応 マニュアルを策定し職員への周知が不十分なこと。	研修や全体会議で行っているため、参加できていない職員 への周知が不十分だった。	事業所会議に再度行うようにしていくことで、参加でき なかった職員への周知、児童に合わせた話し合いより深く 意見交換できる機会としていく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わかな			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 28日		～	2025年 12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年 11月 28日		～	2025年 12月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・3部屋ある活動室を活かし、障がい像や特色に合わせた環境を提供している	・年齢や障がい特性に合わせ、少人数での活動プログラムを提供している ・活動班に分かれながらも、状況に応じて協力体制をとっている	・屋内での活動プログラムが更に充実したものとなるよう、情報収集及び検討していきたい。
2	・自然豊かな地域の特色を活かし、外出する頻度や行先の豊富さが強みとなっている	・地域の公園やビジターセンター、児童館等公共施設に関する情報収集を行い、活動の幅を広げて学ぶ機会を多くもっている ・広域地図を拡大コピーし、活動場所を記入して職員間で共有している	・他事業所や関係機関との連携を密にし、地域のお出掛けスポット情報を共有していきたい。
3	・強度行動障害の状態像にある利用者や、様々な特性に起因して受け入れに困難さがある利用者の受け止めを積極的に行っている	・日常的に施設見学を受け入れ、わかなの環境や状況を直接見ていただくよう配慮している	・事業所内外の研修参画や、チームで検討する機会を多く持ち、共通認識をもって支援にのぞみたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・外部での研修会や勉強会等、職員の資質向上を図る機会が少なく、事業所内の研修場面では、内容がマンネリ化している	・職員数が少ない為、日々の業務に追われている	・内部研修の企画立案 ・外部研修への積極的参加
2	・支援終了後の当日振り返りが十分に行えていないことがある	・活動班を細分化したことで、きめ細やかな情報共有が必要となっている ・他業務に追われ、時間が確保できないことがある	・1日の流れの見直し ・各業務の効率化を図る
3	・他事業所や関係機関との連携、地域住民との交流の機会や、保護者同士の交流の機会は限られたものとなっているため、課題と思われる	・感染症蔓延以前は、同敷地内にある生活介護事業所にて地域に開かれた行事を開催し、参加していた。現状そのような機会がなく、地域住民との交流に積極的に動けていない	・地域住民と交流のある行事の企画立案 ・地域の公園や共同スペースへの外出

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばるしあ			
○保護者評価実施期間	2025 年 11 月 4 日 ～ 2025 年 11 月 28 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	13
○従業員評価実施期間	2024年 11 月 4 日 ～ 2024 年 11 月 28 日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 12 月 8 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の保護者に対する丁寧な対応 保護者アンケートにて様子を丁寧に伝えてくれるとの評価を いただいている	子どもたちが学校やばるしあでの様子を言葉で上手く伝えら れることができず、学校での様子を直接聞くことができない 保護者に対して保護者が気になっている事柄を職員間で把握 し、お伝えしている	日々の職員間の申し送りの際に気になる場面や様子を確認 し、学校や併用事業所との連携を図っていく 子どもたちの新たな表出を記録や情報共有できる時間を設け ている
2	職員間で活発な意見交換ができる	子どもたちの事だけでなく、環境面の課題や保護者とのやり とりについても情報共有し、解決、検討できるよう意識して いる	日頃からコミュニケーションを図り、思いや考えを伝えるこ とができる関係性を築いている 会議においても意見交換できる雰囲気大切にしている
3	外出する機会が多い	こだわりの強い等の障がい特性から家族で外出する機会が少 なく、家庭において新たな経験を積みにくく経験値の浅い子 どもたちが多い現状があるため、新たな経験を積む機会を考 えている。施設や学校等のイベント等へ参加し、個々の楽し みや苦しみも知りながら	特に長期休暇や休日開所の利用時には、外出する機会を積極 的に設けていく。また、地域交流に関しても、参加できるよ う地域の祭りやイベント等の情報を収集していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭い	活動スペースが狭く、部屋数もないため少人数での対応が難 しい。そのため、不安定な子どもに周りの子どもたちが大き く影響され、落ち着いて過ごすことができないことがある	今後の施設整備に向けて大きな改修はできないが、グルー プを分け活動に参加できるよう配慮をしている。少人数での対 応をすることで課題の軽減を図る
2	駐車場の利便性が悪い	駐車場が狭く、保護者の送迎時の時間が重なり、渋滞をおこ すことがある。また、雨天時は特に建物の構造上不便さ(濡 れる等)が増す	できるだけ広い空間が保てるよう公用車の駐車方法等の取り 組みを行い、保護者へ周知をしていったことでかなり軽減さ れた。
3	IT化の遅れ	個別支援計画書等の書類に関してIT化が進んでおらず、紙媒 体での対応となっている。保護者世代はネットでの対応に困 ることがないため今後はITを駆使しスピードと利便性を図 りたい。	保護者アンケートに関しては、インターネットでの発信を実 施。今後はさまざまな書類に関してIT化の検討をしていく 必要がある

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	在宅支援センターぱびるす / 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 16日 ~ 2025年 12月 3日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 11月 16日 ~ 2025年 11月 16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価作成日	2025年 12月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に対しての丁寧な対応 ・保護者が気にかけていること等を細かく連絡をもらい安心しているとの評価をいただいている	・ことばのない児童に対して、各関係機関との情報共有を行い、保護者が気にかけている内容を職員間でも共有することで、支援内容の統一と、親御さんへの連絡を密に行っている	・特別支援学校へのお迎えが直接学校に行くことができない状況であるため、親御さんの許可を得ながら学校との情報共有が必要時に行われるように配慮している ・毎日スタッフ間のミーティングの時間を設け、情報共有ができるようにしている さらに定期的に個別のケース検討の時間を設けている
2	関係機関との情報共有を行うことで、より良い支援に繋げることができている	・ご家族からの相談に対して、事業所だけで解決するのではなく、関係機関と連携することでよりよい支援に繋げる努力をしている ・必要であれば積極的に支援会議に参加、必要時に参集している	・支援会議に参加することはもちろん、今後も、必要時に会議の立案、参集することも取り組みたい ・職員に必要なスキルを身に付けるための研修にも積極的に参加していきたい
3	職員間で意見交換を活発に行っている	・支援内容だけでなく、子どもの特性の分析や環境面の課題整理、保護者とのやり取りについての情報共有を行い、解決、検討できるように意識している	・日頃からコミュニケーションを図ることで、想いや考えを職員同士が伝えることができるような関係性を築いている そのため、定期的職員会議においても意見交換ができる雰囲気がある

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・主な活動室が2階にあるが階段しかない	・視覚にハンデがあるお子さんをお預かりしているため、階段での移動には事故に至らないように細心の注意が必要である	・今後の施設整備に向けて大きな改修は難しいが、必要に応じて1階のスペースに活動を移して対応している
2	・特性に合ったグループ編成のための部屋の確保が難しい	・特別支援学校と支援学級のお子さんが一緒に活動することで、特性に合ったグループ編成が必要だが、部屋と職員配置が十分でない場合がある	・児童発達支援と協力してプレイルームの活用が必要 ・児童の特性に合わせたグループ分けを行っていく
3	・SNSの活用、IT化の遅れ	・法人として日常的なSNSの活用が充分でない。また、個別支援計画書等の書類に関してもIT化が進んでおらず、紙媒体での対応となっている。保護者世代はネットでの対応に困ることがないため、ITを駆使しスピードと利便性を図りたい	・保護者アンケートに関しては、インターネットでの発信を実施。今後はさまざまな書類に関してIT化の検討をしていく必要がある